

1 水稲の種子消毒に温湯浸法を導入

情報提供：東部農業事務所

館林地区農業指導センター

活動の背景

J A群馬板倉の水稲作付面積は約1,600ha であり、「あさひの夢」と「コシヒカリ」を中心に作付けされている。ここで必要とされる水稲種子量は年間45t であり、播種前に種子伝染性病害虫防除として、種子消毒が実施されています。

近年、安心・安全志向の高まりや米価の下落・資材高騰によるコスト低減の必要性が増してきており、その対応策の1つとして「温湯浸法による水稲種子消毒」が導入されています。

普及活動の経過

農業指導センターは、温湯浸法による種子消毒の実施にあたって技術支援を行うとともに、作業に係わる労働力不足の解消のため、シルバー人材センター等の労働力の活用を提案しました。また、生産者への理解協力や周知徹底を図るとともに、処理後の種子保管管理と浸種・催芽時の水温管理等に対しチラシを作成・配布し、温湯浸法による種子消毒や「健苗生産」に努めています。

普及活動の成果

J A群馬板倉では、平成19年度に事業導入した温湯浸法による種子消毒プラントにおいて、平成20年2月末から4月上旬の期間にシルバー人材センターの労働力を活用し、平成20年産用水稲種子45t (1.3t / 日、処理量) の温湯浸法による種子消毒が実施され、乾燥後、生産者に配布した。



シルバー人材による温湯浸法
種子消毒の作業風景

技術のポイント

籾を温湯に浸す消毒法で、水稲種子の場合、60 の湯に10分間浸漬するのが目安です。水温が低いと効果が低下、また、浸種時間の超過は発芽障害をきたす恐れがあるため、水温と浸漬時間は厳守しなければなりません。